

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月19日現在

機関番号：62615

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K00455

研究課題名(和文) プレスリリースの効果的発信の要因に関する定量的調査研究

研究課題名(英文) Quantitative research on factors of effective publication of press release

研究代表者

西澤 正己 (NISHIZAWA, Masaki)

国立情報学研究所・情報社会関連研究系・准教授

研究者番号：00281585

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：近年、特に有力大学でプレスリリースの発表件数が急増していることがわかり、大学の研究成果の一般公表の積極姿勢が明らかになってきた。本研究では、プレスリリースの効果的な発信の条件に関して、プレスリリースが実際に新聞等に掲載された事案を基に、新聞の科学記事全体の特徴や原論文及びその分野や価値の方向性、産学連携状況、発表時の報道環境等を考慮し、その要因を定量的に明らかにすることを目的とした。今研究の結果、新聞への採択率はEigenfactorの高い高インパクトの雑誌や一般からの注目の高い一部の分野に偏ることがわかった。また、研究不正を除く外部要因の影響は小さいことも分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

プレスリリース発信には週の半ばや、月依存もあることが一般的には言われている。しかし、学術研究の報道に関してはこれらの影響が見られないことがわかった。しかし、新聞報道は新聞社の選択の影響がまだ大きく、一部の有名雑誌や一般の注目の高い一部の分野に偏ることがわかった。また、研究不正等の問題は社会への成果公表に、発表側・報道側ともに大きく影響を及ぼすことも分かった。これらを公平に報道していくためには、どのような方策をとったら良いかがこれからの課題となる。

研究成果の概要(英文)：In recent years, the active attitude of public announcement of research results of universities has become clear, especially at leading universities. In this research, regarding the conditions of effective release of press release, based on the case where the press release was actually published in the newspaper etc., the characteristics of the whole scientific article of the newspaper, the original article and the direction of its field and value, the purpose was to clarify the factors quantitatively, considering the industry-academia collaboration situation and the news environment at the time of presentation. As a result of the present study, it has been found that the adoption rate to the newspaper is biased to the high impact journals of Eigenfactor and some high-profile areas from the general public. In addition, it was also found that the influence of external factors excluding research irregularities was small.

研究分野：計量情報学・科学計量学

キーワード：大学 研究成果 報道 学術論文 プレスリリース 新聞 オルトメトリックス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究代表者らはこれまでの研究で、(1) 学術研究の動向や分野間の関係、(2) 研究費とその成果の関係、(3) 学術研究の産学連携の状況、(4) 大学関連のプレスリリースと全国紙での報道の状況、を調査してきた。

(4) に関しては本研究の前段階ではあるが、大学関連のプレスリリースでは、有力大学を中心に、近年プレスリリースの発表件数が急激に増えていた[r1, r2]。プレスリリースと読売、毎日等の全国紙との報道の関係では、機関名の一致、プレスリリースの発表から新聞報道までの時間関係、文書間のコサイン距離等の条件から指標を作成し、内容が一致する組み合わせの抽出の試みを行った。この時点ではまだ目視の確認が必要であったが、プレスリリースの発表と新聞報道の内容が一致する記事の抽出が可能となった。この結果からは、プレスリリース発表の増加に対して、新聞報道の増加も確認されている[r1, r2]。ただし、現状では全国紙の一部しか確認できておらず、大学関連の記事は地方紙や専門誌等にも多く出ているので、これらの確認もこれからの課題となっていた。

2. 研究の目的

研究代表者らはこれまでに学術研究の動向や分野間の関係、産学連携の状況を調査してきた。これらの研究の中では研究成果や研究動向の情報として学術論文や研究資金のデータベースを利用してきた。しかし、社会一般に研究動向が広報されるのは新聞やニュース、インターネット等のメディアである。これまでの研究により、近年、特に有力大学でプレスリリースの発表件数が急増[r1, r2]していることがわかり、大学の研究成果の一般公表の積極姿勢が明らかになってきた。さらに、プレスリリースが実際に全国紙の新聞にどれだけ掲載されたかを調べたところ[r1, r2]、プレスリリースの増加に従って掲載件数も増えてはいるが、原論文の掲載雑誌等に偏りがある[r3, r4]ことも分かってきた。本研究では、プレスリリースの効果的な発信の条件に関して、プレスリリースが実際に新聞等に掲載された事案を基に、新聞の科学記事全体の特徴や原論文及びその分野や価値の方向性、アカデミックマーケティングを含めた産学連携状況、特許情報、発表時の報道環境、プレスリリースの構成等を考慮し、その要因を定量的に明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

これまでの研究代表者らの研究では大学等、研究機関が主体となって発表した研究に関するプレスリリースの増加傾向が明らかになっている[r1, r2, r5, r6]。また、プレスリリースの増加に従って新聞に掲載される対応記事も増えているが、プレスリリースの原論文の掲載された学術誌に関しては、発表の雑誌分布と新聞に掲載された雑誌の分布に違いがあることがわかってきた。[r3, r4]

プレスリリースに関しては、最近の分析で日経プレスリリースでは2012年以降では増加傾向が止まっているような結果が得られているが、新聞に関しては2013年より後の分析はできていない。よって、2014年以降の新聞記事データを購入し、本研究に用いる。特にプレスリリースの増加が安定的になった2011年以降のデータを分析することによって多くの対応データが得られる。

プレス発表する成果と実際に報道されている研究成果の差異の要因を定量分析するためには、関係する要因を正確に見つける必要がある。これは、大きく分けて(A)発表側の要因、(B)報道側の要因、(C)外部環境、に分けることができる。

- (A) 発表側の要因としては、(1)研究等の分野、(2)基礎研究、応用研究、開発、臨床、調査等の違い、(3)共同研究や産学連携等の発表機関の構成、(4)原論文等の発表先(学術雑誌、国際会議、学会発表、特許等)、(5)プレスリリースの発表形態、(6)プレスリリースの構成・書き方等、が挙げられる。
- (B) 報道側の要因としては、(1)新聞記事の分野傾向、(2)研究成果の価値の方向性(科学や文化的価値、経済や産業的、社会的価値等の分類)、(3)発表主体との地理的要因(地方版での掲載)、(4)他の同種の記事の掲載、(5)原論文等の論文誌等のインパクトファクター等への偏重、(6)科学記事のニュース面、フィーチャー面での割合等紙面に割く大きさ等が考えられる。
- (C) 外部要因としては、(1)報道側の記事全体の大きさにも関連するが、他の大きな事件、事故、災害等により科学記事に割く紙面が無くなる可能性がある。また、(2)発表側の要因とも関連するが、プレスリリースの集中による影響も考えられる。さらに(3)学術賞の受賞等で社会全体が興味を持っている分野の潮流の影響も考えられる。

最終的には、学術成果が新聞等に報道される要因を定量的に把握することにより、研究振興のために資する資料を提供するとともに、ニュース報道等の研究評価への利用が客観的なものかどうか他の指標との比較や分野間の違いの影響等も含め、全体像の把握を目指す。

4. 研究成果

4.1 使用したデータ

4.1.1 プレスリリース

プレスリリースは発表する機関側から新聞メディア等への能動的な発表形態であり、「大学」

関連のプレスリリースにおいては、大学が成果等を発表したもの、企業との産学連携や提携、その他、企業の製品が大学などに納入されたというような記事も含まれている。

日経テレコン 21[r7]での検索では、見出し記事の他、記事本文の検索が行われる。また、検索は本文や見出しに対して付けられたキーワードに対して行われているので、「大学」で検索した場合は、本文には「東大」しかなくても「東京大学」がキーワードに含まれており、機関名に関しては、省略形でほぼ検索にはヒットするようである。分析には、2005年から2015年の間に発表され、日経プレスリリースに掲載されたプレスリリースに対して「大学」を検索語にしてヒットした14,582件の見出し、および本文の記事を調査した。プレスリリースの本文データについては最新のものについては、日経プレスリリース[r8]のテキスト情報が利用できる。しかし、最新の6ヶ月分のリリースしか検索できないため、過去分については見出しと同様に日経テレコン 21のPDF本文データを利用した。

4.1.2 新聞記事

新聞記事については、日経テレコン 21の検索を併用しつつ、日外アソシエーツから発売されている新聞記事データ集[r9]を使用した。ここでは、全国版および地方版がそろった、読売新聞および毎日新聞の新聞記事データ(2007年から2014年版)を使用した。

4.1.3 オルトメトリックスコア

オルトメトリックス(altmetrics)は、ソーシャルメディアにおける反応を中心に、学術論文などの研究成果物の影響度を定量的に測定する指標である。本研究では、様々なソーシャルメディア上で論文や研究データが注目を集めた程度を論文単位で測定する Altmetric Attention Score 指標(オルトメトリックドーナツと呼ばれる(AAS))を用いる[r10]。AASの取得には、Altmetric API key[r11]を用いてDOIから検索した。

4.2 分析手法

4.2.1 プレスリリースと新聞記事の相関

プレスリリースと新聞記事の内容の一致を調べるために、プレスリリースの記事見出し、新聞の見出し、新聞の本文記事のそれぞれをキーワードに分解し、キーワードの一致度合いからプレスリリース見出し(A)と新聞見出し(B)間、プレスリリースの見出し(A)と新聞記事本文(B)間のコサイン距離 $Sim(A,B)$ を求めるが、組み合わせの数が多くなりすぎるため、プレスリリースと新聞記事に出現する機関名が同じものに対して、さらに、プレスリリースが出されてから新聞記事が出るまでの日時差が-10から+45日までの間の記事について計算をおこなった(coin-index)。詳しい説明は[r12]に述べており省略するが、ここでは2011年から2014年の読売新聞および毎日新聞に対して、上記の方法で確認したプレスリリースとそれに対応した新聞記事の組み合わせを得た上で、分析に使用している。

4.2.2 プレスリリース原論文のDOI情報

我々はこれまでに、プレスリリースの原論文情報の抽出を行った[r13][r14]。原論文情報の中には、DOIが明記されているものもあり、これまでの原論文抽出方法に加えて、DOI情報の抽出も行った。まず、「DOI」または「10.」の表記がプレスリリース本文中に出現するかどうかを調べた。DOIが明記されていなくても、著者、雑誌名、論文タイトル等の情報が書かれているものがあり、この情報から検索により論文を特定しDOI情報を得た。

4.3 主な結果

4.3.1 プレスリリースの原論文及び分野

プレスリリースの原論文となる学術雑誌の出現頻度では、Nature Communication、PNAS、Nature、Science、Scientific Reportsをはじめとして、著名な総合学術誌が上位を占める一方で、物理分野ではPhysical Review Letters、化学分野ではJournal of the American Chemical Society、など、特定の分野での有力雑誌やNatureの分野別の姉妹紙等もリストの上位となっている。雑誌数では生物、医学系の雑誌の数が上位に多くきている傾向が見て取れる。また、近年有力総合学術誌の中での変化が見て取れる。Nature、Science等は変化がないかやや減少傾向が見えるのに対し、Nature Communication、Scientific Reports、Cell Reportsなどは急激に増加している。高い学術価値の学術論文の投稿傾向が有力オープンアクセス誌へと変化しているかと思われる。(j[1]参照)

次に、学術雑誌に関しては、JCR(Thomson Reuters, 2015, 現:クларイベイト・アナリティクス)[r15]の226の分野カテゴリを日本の科学研究費補助金の以下の10の分野に対応させた。(1) Agricultural science (AGS), (2) Biological Science (BIO), (3) Chemistry (CHE), (4) Complex systems (CPX), (5) Engineering (ENG), (6) Environmental science (EVS), (7) Informatics (INF), (8) Interdisciplinary science and engineering (ISE), (9) Mathematical and physical science (MPS) Medical (MED) and (10) Social science (SOC)。さらに、Nature、SCIENCE等、Multidisciplinary Sciencesに分類されるものは(11) Multidisciplinary Sciences (MDS)とした。JCRではjournalに複数の分野カテゴリが付与されているが、11分類の複数の分野に対応する場合は重複して分野を付与している。出現数も、伸

びも Biological science (BIO)分野が高かったが、2013 年を境に、雑誌数は少ないが、Multidisciplinary science (MUL)が逆転している。これは、表 1 の結果を序実に示すもので、表 1 では上位に Nature Communication, PNAS, Nature, PLoS One, SCIENCE 等が並んでおり、有力 MUL 誌や BIO 誌への掲載がプレスリリースに繋がっていることを示している。また、MPS, MED, CHE 分野が中位にあるが、伸びは BIO, MUL には及んでいないように見える。(j[1]参照)

4.3.2 雑誌指標とプレスリリース原論文

ここでは、プレスリリースに現れた学術雑誌と 2014 年の Two year Journal Impact Factor (JIF) [r15]、Eigenfactor (EF) [r15]及び、h5-index (h5) (Google Scholar)との相関を調べた。JIF は異なる分野での比較は適当ではないが、必ずしも高い JIF の雑誌が高頻度で現れている訳ではない。次に EF と h5 に関しては良い相関を示しているように思われる。この結果からは、日本の大学がプレスリリースを行う基準として EF や h5 の高い雑誌が選ばれていることがわかる。ただし、Nature Communication 等近年発刊された有力雑誌については、2014 年の段階では EF の値が小さいが(2014: 0.26)、今後値は大きくなるものと思われる。新しい雑誌では指数が評価に追いついていないが、今後安定するに従って、他の有力誌と同様の傾向を示すことになるのであろう。(j[1]参照)

4.3.3 Altmetric Attention Score と新聞掲載率との関係

4.2.2 章で述べた方法で 2011 年から 2014 年の DOI 情報を元に、Altmetric Attention Score (AAS)を得た。一部の DOI に関しては、Altmetric.com からデータが得られず、1,838 件中約 80% の 1,468 件の AAS データを得た。さらに Web of Science(WoS)では約 96%の DOI がヒットし、1,761 件について引用数を得た。AAS 及び WoS の引用数(対数)に対して、新聞掲載のあり、無し対数の平均の差を検証した。AAS に関しては、対数の平均で新聞掲載のあり、無しに対してそれぞれ、1.247 と 0.7284 となり、検定の結果、これは有意な差となる。さらに WoS の引用数に対してもそれぞれ 1.6275 と 1.4859 となり、検定の結果有意な差があった(c[3]参照)。ここでは詳しく述べないが、国内及び国際共著等の関係においても有意な差は得られている(c[3]参照)。

4.3.4 学術雑誌及び分野別の新聞掲載率

表 1 には 2011 年から 2014 年に発表されたプレスリリースで掲載雑誌別の新聞掲載率、表 2 には研究分野別の新聞掲載率を示す。Nature や Science などの総合科学雑誌に加えて、Astrophys.J.などの天文学、Nat.Geosci.などの地球科学関係、Nature Genet., Neuron, Cell, Current Bio.等のバイオサイエンス系の雑誌の掲載率が高くなっている。一方、Phys. Rev. Lett. and Angew. Chem.-Int.等の物理、化学系の主要雑誌の掲載率の低さが目立っている。分野別では(WoS の雑誌カテゴリは複数付けられているため、重複がある)新聞の掲載率は分野によって大きく違っていることがわかる。これは読者の興味や地震災害等の外的要因との関連も考えられる(c[3]参照)。

表 1: 雑誌別新聞掲載率

rank	Journal	Press Release	with news	rate
1	Nat. Commun.	171	18	10.5%
2	Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.	144	29	20.1%
3	PLoS One	104	26	25.0%
4	Nature	91	38	41.8%
5	Science	75	20	26.7%
6	Phys. Rev. Lett.	75	3	4.0%
7	Sci Rep	64	11	17.2%
8	J. Neurosci.	33	3	9.1%
9	J. Am. Chem. Soc.	32	2	6.3%
10	J. Biol. Chem.	31	2	6.5%
11	Angew. Chem.-Int. Edit.	30	1	3.3%
12	Nat. Mater.	30	2	6.7%
13	Appl. Phys. Lett.	29	1	3.4%
14	Nat. Phys.	24	2	8.3%
15	Nature Genet.	24	7	29.2%
16	Neuron	20	5	25.0%
17	Cell Reports	17		
18	Appl. Phys. Express	17	1	5.9%
19	Cell	16	6	37.5%
20	Nat. Photonics	15		
21	Curr. Biol.	15	5	33.3%
22	Astrophys. J.	14	4	28.6%
23	Nat. Neurosci.	13	1	7.7%
24	Phys. Rev. B	13		
25	Mol. Cell	13	1	7.7%
26	Nat. Geosci.	12	8	66.7%
27	Nat. Nanotechnol.	12		
28	Immunity	12	4	33.3%
29	Nat. Chem.	12	2	16.7%
30	J. Clin. Invest.	11	4	36.4%
31	Adv. Mater.	11		
32	Astrophys. J. Lett.	10	1	10.0%
33	Nat. Med.	10	3	30.0%

表 2: 分野別新聞掲載率

rank	Web of Science Category	Journals in PR	with News	rate
1	Multidisciplinary Sciences	651	139	21.4%
2	Cell Biology	188	34	18.1%
3	Biochemistry & Molecular Biology	169	26	15.4%
4	Physics, Applied	132	5	3.8%
5	Chemistry, Multidisciplinary	122	7	5.7%
6	Neurosciences	110	16	14.5%
7	Physics, Multidisciplinary	106	5	4.7%
8	Materials Science, Multidisciplinary	101	4	4.0%
9	Chemistry, Physical	79	2	2.5%
10	Genetics & Heredity	72	16	22.2%
11	Physics, Condensed Matter	68	2	2.9%
12	Nanoscience & Nanotechnology	54	1	1.9%
13	Medicine, Research & Experimental	41	13	31.7%
14	Astronomy & Astrophysics	33	10	30.3%
15	Immunology	32	8	25.0%
16	Optics	26		
17	Geosciences, Multidisciplinary	26	12	46.2%
18	Plant Sciences	25	1	4.0%
19	Developmental Biology	24	2	8.3%
20	Ecology	24	9	37.5%
21	Evolutionary Biology	23	8	34.8%
22	Biology	22	6	27.3%
23	Cell & Tissue Engineering	19	10	52.6%
24	Microbiology	19	1	5.3%
25	Oncology	15	6	40.0%
26	Biotechnology & Applied Microbiology	15	2	13.3%
27	Biophysics	14		
28	Biochemical Research Methods	14		
29	Environmental Sciences	13	4	30.8%
30	Virology	13	1	7.7%
31	Endocrinology & Metabolism	13	6	46.2%
32	Medicine, General & Internal	13	1	7.7%
33	Parasitology	12	1	8.3%
34	Hematology	12	5	41.7%
35	Chemistry, Analytical	11		
36	Clinical Neurology	11	3	27.3%
37	Peripheral Vascular Disease	10	4	40.0%

4.3.5 外的要因の分析

プレスリリースと新聞報道(毎日新聞、読売新聞)の一致を見るために、4.2.1で述べた *coindex* を計算し、確認の指標としたが、2011年の東日本大震災の影響や2014年のSTAP細胞に関する過熱報道が影響を及ぼしていたが、このキーワードを除くことで分析への影響は軽減できることがわかった。(j[2]参照)。

次に、報道側の都合による外部要因として、発表の月、曜日依存性、号外等の重大ニュースの影響について、定量的分析、考察を行った。ここでは大学関連のプレスリリースでも研究成果((a)DOIあり)とそれ以外の報告((b)DOI無し)に分けて分析を行った。

プレスリリースが新聞報道される場合の外部要因として書籍等では、プレスリリースの発表日は報道側の都合を考慮し、「曜日では月曜、金曜は避け、週の半ばの火曜、水曜、木曜の方が記事に採用される確率が高い」と述べている。さらに、月別では、「12月、1月および5月、6月は避け、2月、8月が最も適当である」と言われている。月依存性に関しては、どちらの新聞に対しても「(a)DOIあり」の方が2倍程度採択率は高くなっており、研究成果に対してのメディアの興味は高いと言える。また、月依存性に対しては「(b)DOI無し」に関しては、書籍で言われている傾向が無いとも言えないが、「(a)DOIあり」に関しては、1月、6月が高い傾向が見えるなど、一般的な傾向とは異なっている。現時点ではデータが少ないため、詳しい分析は今後の課題である。曜日依存性に関しては、「(b)DOI無し」には、発表自体が月曜と金曜が少ないが、採択率はほぼ依存性は認められない。「(a)DOIあり」に関しては、1月、6月が高い傾向が見られる。これは採択率の高い雑誌の刊行日(Nature:木曜、Science:金曜)等の影響が強いのでは無いと思われるが、これらの分析も今後の課題である(j[1]参照)。

号外等が出るようなニュースがある場合、学術記事に対しても紙面に入らない可能性も考えられる。ここでは、2011年から2014年までの「大学関連」のプレスリリースに対して、新聞(毎日、読売の少なくとも一方)への採択率を号外のある日と無かった日に分けて調査した。2013年の「号外あり」に対する採択率がやや低い、その他の年に違いは認められない。2013年については、号外自体が少なく、統計的にやや弱い調査となっており、どのような号外に対して採択されていないのかの詳しい調査も必要であろう。このよう詳細な調査も今後の課題である(j[1]参照)。

4.3.6 まとめ

近年、特に有力大学でプレスリリースの発表件数が急増していることがわかり、大学の研究成果の一般公表の積極姿勢が明らかになってきた。本研究では、プレスリリースの効果的な発信の条件に関して、プレスリリースが実際に新聞等に掲載された事案を基に、新聞の科学記事全体の特徴や原論文及びその分野や価値の方向性、産学連携状況、発表時の報道環境等を考慮し、その要因を定量的に明らかにすることを目的とした。今研究の結果、新聞への採択率はEigenfactorの高い高インパクトの雑誌や一般からの注目の高い一部の分野に偏ることがわかった。また、研究不正を除く外部要因の影響は小さいことも分かった。一部の要因の分析が終わっていないため、統計手法を用いた要因分析には至っていないが、現時点では新聞報道側の選択の影響が最も強いことがわかってきている。今後、残りの要因と研究不正や甚大災害の影響が少ない期間のデータを増やし最終的な要因分析に結び付けたい。

4.3.7 参考文献

- [r1] Masaki Nishizawa and Yuan Sun, "How is scientific research reported in newspapers? - Comparison between press releases and two different national newspapers in Japan", In Proceedings 10th International Conference on Webometrics, Informetrics, Scientometrics and Science and Society & 15th COLLNET Meeting, Illmenau, Germany, pp.373-379, 3-5 September, (2014)
- [r2] 西澤 正己, 孫 媛, 「学術研究のメディア報道における定量的調査研究 -プレスリリースと2つの異なる全国紙の比較-」, 情報知識学会誌 2014 Vol. 24, No. 2, pp.216-223 (2014.05)
- [r3] Masaki Nishizawa and Yuan Sun, "How is scientific research reported in newspapers? -Relationship between press release and scientific publication", In Proceedings 11th International Conference on Webometrics, Informetrics, Scientometrics and Science and Society & 16th COLLNET Meeting, Delhi, India, 26-28 November, (2015)
- [r4] 西澤 正己, 孫 媛, 「学術研究のメディア報道における定量的調査研究 -プレスリリースと原論文、そして新聞報道の関連-」, 情報知識学会誌 2015 Vol. 25, No. 2, pp.131-139 (2015.05)
- [r5] Masaki Nishizawa and Yuan Sun: "How well do newspapers describe scientific research? -An Investigation into the Correlation of Press Releases and Newspaper Articles", 9th International Conference on Webometrics, Informetrics, Scientometrics and Science and Society & 14th COLLNET Meeting 2013 (2013.08), 査読有り
- [r6] 西澤 正己, 孫 媛, 「学術研究のメディア報道における定量的調査研究 -プレスリリースと新聞報道の関係-」, 情報知識学会誌 2013 Vol. 23, No. 2, pp.279-285 (2013.07)
- [r7] 日経テレコン 21: <http://t21.nikkei.co.jp/> (参照 2019年6月)

- [r8] 日経プレスリリース: <https://www.nikkei.com/pressrelease/> (参照 2019年6月)
- [r9] 日外アソシエーツ, 学術研究・開発研究のための言語資源コーパス: <http://www.nichigai.co.jp/sales/corpus.html> (参照 2019年6月)
- [r10] Altmetric Attention Score:
<https://help.altmetric.com/support/solutions/articles/6000060969-how-is-the-altmetric-attention-score-calculated-> (参照 2019年6月)
- [r11] The Altmetric API: <https://www.altmetric.com/products/altmetric-api/> (参照 2019年6月)
- [r12] 西澤 正己、孫 媛, 「学術研究のメディア報道における定量的調査研究」, 情報知識学会誌, Vol.22, No.2, pp.138-143, (2012).
- [r13] 西澤 正己、孫 媛, 「学術研究のメディア報道における定量的調査研究 - プレスリリースと新聞報道の関係 - 」, 情報知識学会誌 Vol.23, No.2, pp.279-285, (2013).
- [r14] 西澤 正己、孫 媛, 「学術研究のメディア報道における定量的調査研究 - プレスリリースと2つの異なる全国紙の比較 - 」, 情報知識学会誌 Vol.24, No.2, pp.216-223, (2014).
- [r15] クラリベイト・アナリティクス, Journal Citation Reports: <https://clarivate.jp/products/journal-citation-reports/> (参照 2019年6月)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4件)

- j[1] プレスリリースと新聞報道との関連分析 - 外部要因の分析 -
西澤 正己, 孫 媛
情報知識学会誌 29(2) 116-122 2019年5月, 査読有
- j[2] プレスリリースと原論文、オルトメトリックス指標との関連分析 - 過熱報道の分析に与える影響 -
西澤 正己, 孫 媛
情報知識学会誌 28(2) 121-126 2018年7月, 査読有, DOI: 10.2964/jsik_2018_009
- j[3] 学術研究のメディア報道における定量的調査研究 - プレスリリースと原論文、オルトメトリックスとの関連分析 -
西澤 正己, 孫 媛
情報知識学会誌 27(2) 213-218 2017年7月, 査読有, DOI: 10.2964/jsik_2017_026
- j[4] 学術研究のプレスリリースと原論文に関する詳細分析
西澤 正己, 孫 媛
情報知識学会誌 26(2) 116-123 2016年7月, 査読有, DOI: 10.2964/jsik_2016_008

〔学会発表〕(計 6件)

- c[1] Exploring the relation between press releases and media coverage of Japanese university research outputs
Masaki Nishizawa and Yuan Sun
14th International Conference on Webometrics, Informetrics, Scientometrics and Science and Society & 19th COLLNET Meeting, Macou, China 2018年12月 [査読有り]
- c[2] How is academic research reported in the media? - Relationships between attention in the press and social media -
Masaki Nishizawa and Yuan Sun
13th International Conference on Webometrics, Informetrics, Scientometrics and Science and Society & 18th COLLNET Meeting 2017年7月 [査読有り]
- c[3] How is scientific research announced in a press release? - Focusing on its relationships with journal indicators -
Masaki Nishizawa and Yuan Sun
In Proceedings 12th International Conference on Webometrics, Informetrics, Scientometrics and Science and Society & 17th COLLNET Meeting, Nancy, France 2016年12月 [査読有り]

6. 研究組織

(1) 研究分担者

連携研究者氏名: 孫 媛

ローマ字氏名: (SUN Yuan)

所属研究機関名: 国立情報学研究所 部局名: 情報社会相関研究系 職名: 准教授

研究者番号(8桁): 00249939